

医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学病態制御薬理医学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2021年6月
福島県立医科大学医学部
病態制御薬理医学講座
下村 健寿

【研究課題名】生活習慣病・神経疾患における血中ならびに髄液中におけるホルモン・神経ペプチドの変化の研究

【研究期間】2020年9月～2024年10月

【研究の意義・目的】

肥満や糖尿病といった生活習慣病の患者数は増加の一途を辿っています。一方で神経変性疾患（脊髄小脳変性症やアルツハイマー病など）、神経免疫疾患（多発性硬化症）など脳神経疾患患者も増加しています。これらの脳神経疾患の発症には肥満や糖尿病などの生活習慣病と関連する可能性が指摘されています。摂食量や血糖値、血中脂質の制御には、脳神経細胞が分泌する物質（神経ペプチドやホルモン）が関わっていることが報告されています。しかし、生活習慣病と脳神経疾患の関連はまだ十分に解明されていません。

本研究では、治療・診断目的のために採取され、必要な検査が終わった後に残った血液や髄液、または医学部解剖実習のために献体されたご遺体の実習後に残った組織を用いて、上記の生活習慣病や脳神経疾患に関連する神経ペプチド/ホルモンがどのくらい含まれているかを測定し、病気との関連性を調べます。また、様々な生活習慣病や脳神経疾患の治療薬について血中ならびに髄液中に移行した薬物濃度を検討します。

【研究の対象となる方】

1. 本学白菊会の会員で、研究期間内に献体されたご遺体
2. 本学附属病院脳神経内科、または松村総合病院を、生活習慣病、脳神経疾患で受診し、本研究についての説明を受け、参加に同意した患者さん

【研究の方法】

- ・生活習慣病と脳神経疾患の患者さんから診断・治療目的で採取され、検査を終えて使用済みとなった残余検体（血液、髄液）または医学部解剖実習のために献体されたご遺体の実習後に残った組織を用いて、検体中のホルモン、神経ペプチド、薬物濃度を測定し、患者さんの基本情報（体重や診断に用いた検査項目や病型、重症度）との比較・解析を行います。生活習慣病としては、糖尿病、肥満、高脂血症、高血圧症が含まれます。また、脳神経疾患としては、多発性硬化症、ヘルペス脳炎、筋委縮性側索硬化症、脊髄炎、髄膜炎、ギランバレー症候群、クロイツフェルト・ヤコブ病、フィッシャー症候群、リウマチ性多発筋痛症、アルツハイマー病、認知症が含まれます。
- ・対象患者さんの基本情報として個人が特定できないように匿名化したうえで、実際の診察および治療時のデータ（体重、血糖値、インスリン値、肝機能、腎機能、血清コレステロールや中性脂肪など）、炎症所見の有無やその程度、髄液所見を用います。

【研究組織】

研究責任者	(所属)	病態制御薬理医学講座 (職)	主任教授 (氏名)	下村 健寿
研究分担者		脳神経内科学講座	主任教授	金井 数明
		神経解剖・発生学講座	主任教授	八木沼 洋行
		病態制御薬理医学講座	准教授	前島 裕子
		病態制御薬理医学講座	講師	三坂 眞元
		病態制御薬理医学講座	講師	堀田 彰一郎
		病態制御薬理医学講座 (村松総合病院)	大学院研究生	清水 優

【他の機関等への試料等の提供について】

提供はありません。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部病態制御薬理医学講座 担当 下村 健寿
電話:024-547-1155 FAX: 024-548-0575
E-mail:shimomur@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部病態制御薬理医学講座 担当 下村 健寿
電話:024-547-1155 FAX: 024-548-0575
E-mail:shimomur@fmu.ac.jp